

二一七

北遊奇詠

貳

川遊

琵琶秘曲注述靈



長別赤回園古源平我舞并地めて多載の逆恨
さむ曲魂長く消る事能く月明かりも海面ふりや
一記声きき面さる秋いふふ鬼火と花と後世
いひて一字と遠く曲裏と感するさるる所跡
と名づ一二の續紳及び名士まこれと傳と連ぬま
いしは魂をのをきし鼓音者あり芳一といひ初より
小習熟して長するふほひとめと接ひ之位約推し

外をす

二

と妙くこの増丸の面影ゆつてつて深に書
かさるすまはに極して芳一が事とわらや人
とて感位下め鬼神と動くともしててやける又
阿弥陀の位藏和尚さふとと貴くして彼と寺力ふ
深きその理道を深きひる事連ね一日和尚は勢
よめて休を知るふあひ芳一異感とさけふあああ
の極くは福なり理道深きひるに夜深更なる門外
人ありゆふ入て極下に立芳一といふも極きとて
誰せりとも年を回さるかたは曲の者あるさる

終り^{いん}の武^{けん}き^み進^{しん}ち^みて寺^{てら}内^{うち}でわたりける
聖^{せい}眼^{がん}と^らな^らて^て軟^{なん}を^を海^{かい}邊^{べん}に^にや^やし^し和^わ尚^{じやう}
よ^よか^かく^くと^と告^つ家^けみ^みぞ^ぞ都^とて^て芳^{ほう}一^{いつ}河^が鳴^{なり}や^や毎^{まい}夜^やい^いづ^づへ
ゆ^ゆや^やと^とぬ^ぬる^るも^もと^とた^たに^に雨^{あめ}の^の心^{こころ}で^で能^{のう}く^くい^いて^てや^やと
ざ^ざり^りん^んと^とば^ばら^らる^るも^も又^{また}や^やい^いぬ^ぬと^とら^らべ^べる^るは^は清^{せい}浄^{じやう}の^の邊^{べん}と^と
宿^{しゆく}僧^{そう}芳^{ほう}一^{いつ}も^もあ^ある^ると^と新^{しん}案^{あん}乃^{のう}と^と新^{しん}よ^よと^とい^いて^て芳^{ほう}一^{いつ}
又^{また}へ^へと^と宿^{しゆく}僧^{そう}ト^トア^アい^いる^るも^もで^で村^{そん}落^{らく}境^{かう}内^{うち}に^に搜^{そう}索^{さく}す^すに^に
今^{いま}夜^やい^いと^とあ^ある^ると^と例^{れい}の^の鬼^き火^か四^し方^{ほう}ふ^ふれ^れと^とい^いと^と淋^{りん}
き^き夜^やい^いと^とあ^ある^ると^と例^{れい}の^の鬼^き火^か四^し方^{ほう}ふ^ふれ^れと^とい^いと^と淋^{りん}



此よりん琵琶の声のや久々もよもひとていふ
 いふふ安徳帝法後のはるか芳一琵琶と弾きて座を板
 うそと大勢よりまかう女変とて枇杷のふふ紀さき一やめ
 と雲もよも芳一をむそめ清前よりぞみよとまうふ
 かきと制と座落大よ希ひて現不無よ芳一とぞくふ
 海にて和ある偶一件の縁とさせば和ある一はひつと
 此れ雨はいつける世とぬらふ世とて前をなきて
 りしものさき一和あるとて愛とて無諸のまよひ事とて
 る初よりこれ才と落る和あるとて終るは必ず幽魂女

と石見一老殿はわく芳一はうらうらと極よとて
 血流まゝ板とほじ唄じや今とてうらうらとていふはれ
 る芳一両耳とてく世の世はうらうらとていふはれ
 てわと唄びたるは和當我ううう氣だたふとて
 まゝ初々人の付は附和當は身とてうらうらとて
 まゝ一活来とてうらうらとてうらうらとて我場にて
 落して經文をまゝいふはうらうらとてうらうらとて
 後来るまゝ一とて今とてうらうらとてうらうらとて
 生とてうらうらとてうらうらとてうらうらとて

林狂詩法

三〇十一

わちん金と拾ひたる金とてうらうらとてうらうらとて
 耳とてうらうらとてうらうらとてうらうらとて

娼樓焼香亭又記

飛鳥の乃倒れとて世中に唯娼樓焼香亭乃風流乃
 目とてうらうらとてうらうらとてうらうらとて
 川舟の舟のうらうらとてうらうらとてうらうらとて
 うらうらとてうらうらとてうらうらとてうらうらとて
 商歌歌とてうらうらとてうらうらとてうらうらとて
 うらうらとてうらうらとてうらうらとてうらうらとて

こふは港ををりける事も方々遊びに高上りてをを
押かへく入る人々杉原と教とにけり中にも竹村の来
が家の花楊とて入るる実質肩とて遊ぶ方々執業人を
當りて海客世よりかきまうて世風は長しゆ奇なり
書画より技藝なきをわびむれ人の書とて二文とふ
まうてんり今も日寒う花つまりて過入る郷巴あり
ひたり門外馬とや人を健健つてまゝおきやて國方ふ
へはまゝも面敷なる事なりけりまゝ奉法とて
よむてまゝ風はまゝ一内はまゝの心ありとてまゝ

外松年流

二〇十一

何れの大納言とやつてわかれはては信濃はむすひ
たりけし驛は投着なり花楊とて理とてあきめり
毛とて秘業なりとて人々玉腕初飛とてまゝあひて
そと秋園中にまゝうらぶ大はなは此とていふ常葉得一姫
とて三我まのて飛ゆりまゝあふ海とて都に具とてまゝ
そとまゝ此道も月人々とてまゝのつてあふ彼はなり
まひ花楊とてまゝあきまゝとてまゝあきまゝとて
まゝあきまゝとてまゝあきまゝとてまゝあきまゝとて
まゝあきまゝとてまゝあきまゝとてまゝあきまゝとて
まゝあきまゝとてまゝあきまゝとてまゝあきまゝとて

よき事なるふ侍居お慥し真ふ妙曲ふせうその無なるん

かたがりこぞめて曲きうききあ橋ふひひある事

聞ふんとあるふ橋半ありむろろりも現画の工事んかぞ

るけりめとあるさう返ひて度器此蹠蹠とうかづと

眉と撫め心と捧て俄は痛様ふ苦んで席またんぞ

つへ流る志づうくゆるさそあてと云解て席と解と

もたふ人海めとぞひこひ意成形とて席と解

とまふあまのかけらとくうらふあまの流のゆき

うらふ橋とふさそとて己が房裡と入る人と抱と



低^ひく^くる^る今^{いま}夕^{ゆふ}に^にか^かば^ば不^ふ成^{じやう}なり^{なり}大^{だい}ま^まに^にけ^けり^りと^と驚^{おどろ}
 き^きあ^あは^は我^{われ}魔^まの^の熟^{じやく}せ^せざる^{ざる}所^{ところ}に^にと^とも^もあ^あは^は色^{いろ}な^なく^く雲^{うん}か^かき^き
 お^おど^どく^くの^の志^し難^{がた}い^いと^と生^なじ^じ又^{また}の^の又^{また}あ^あ歌^か舞^ぶ妙^{めう}ふ^ふい^いと^とし^し
 と^とも^もそ^そま^ま色^{いろ}皆^{みな}消^{しょう}は^は腐^{くさ}で^で陽^{やう}ふ^ふ和^わび^び志^しの^のり^り決^{けつ}い^い
 かる^{かる}大^{だい}戸^こか^から^らも^もや^やけ^け内^{うち}を^を飲^のむ^むこ^こも^も久^くき^き編^ひ故^こり^り
 巧^{くわう}く^くる^る是^{こゝろ}妖^{よう}怪^{かい}の^の所^{ところ}あ^ある^る一^{いつ}傳^{でん}へ^へき^き葉^え葉^え侍^しの^の魅^み鬼^き
 そ^そ香^{かう}氣^きと^とお^おも^もこ^こ子^こ氣^き抗^{かう}い^いち^ちあ^あは^はじ^じで^でお^おく^くと^とあ^あり^り我^{われ}
 何^{なん}れ^れの^の要^{よう}相^{さう}より^{より}初^{はつ}め^めの^のあ^ある^る一^{いつ}短^{たん}と^とお^おく^くと^とあ^あり^り我^{われ}
 決^{けつ}し^し一^{いつ}形^{かたち}へ^へ今^{いま}あ^あり^りそ^そう^うう^うひ^ひき^きづ^づ一^{いつ}と^と今^{いま}を^をあ^あて^て

觀音薩埵施無畏之圖

唐紙 一枚摺

一幅

此圖ハ明人李龍眠が描くる真跡の模寫なり觀音薩埵の功德三十三身の應現ありく觀音を念むる者其功力を以て火坑墮る池水と愛じ大河漂す淺瀬とある或惡獸毒蛇不遇ひ或天変地妖ありて難不遇ども敢て害を受む時不應ドて消滅るる靈驗威得ありといふ經文の意を繪書し十手陀羅尼の梵字を以て周小冊を書きて其妙筆を顯し一のあり

念佛行者現生護念之圖 一枚摺

沙門妙玄述る所なり念佛無量の功德を紀しと弥陀の庇験利益のありとを記しを注し圖をこゝ一枚むりあり

書肆

尾州名古屋本町通七丁目
江戸日本橋通本銀町二丁目

同 永樂屋東四郎
出店